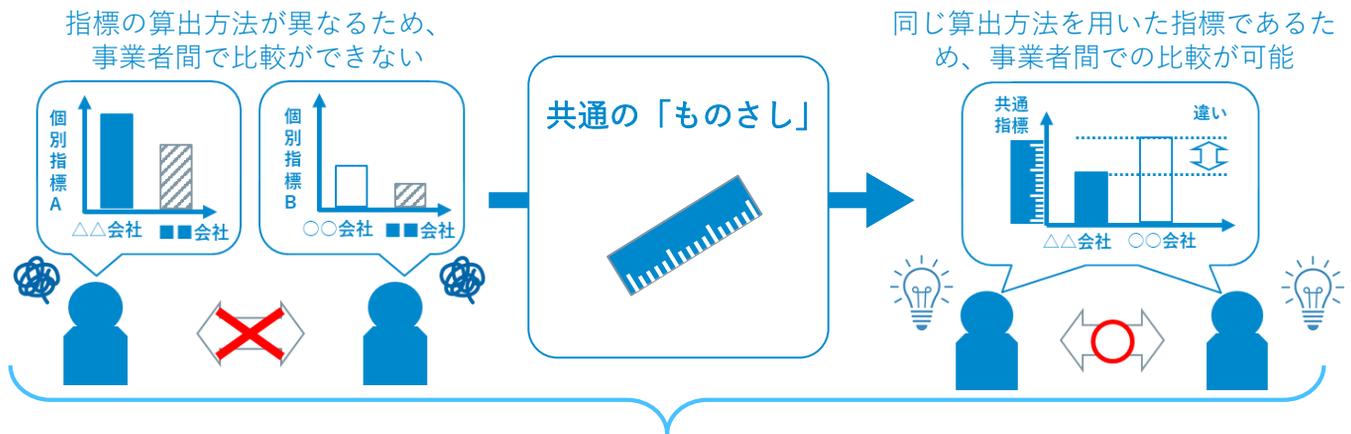


発電所運営に共通の「ものさし」を

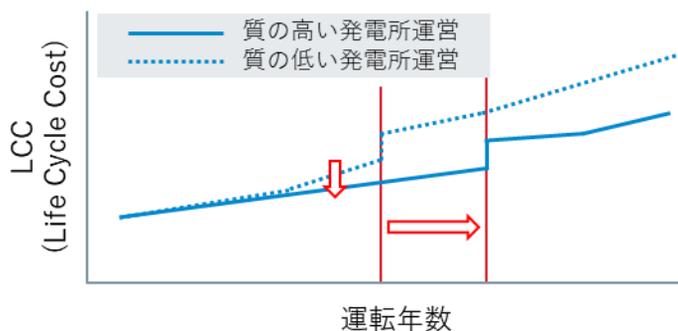
発電所運営に「ものさし」を用いる意味



発電所運営の違いを見える化

発電所運営力の質的向上

発電所運営の質的向上がもたらす世界



発電所運営の質的向上は、経済価値の向上を促し、ついでに発電所のライフサイクルコスト（以下、LCC）の低減に繋がります。

具体的には不具合の発生や発電効率の低下を抑えることにより、経年的なLCCの増加割合を抑制することができます。また、設備の余寿命が短くなると、大規模修繕が必要となりますが、適切な保守管理により設備の長寿命化が可能となります。

「ものさし」

JERAは、共通の「ものさし」としてISO37160を採用します。ISO37160は、中長期的な火力発電インフラ品質（QTPI; Quality of Thermal Power Infrastructure）の維持・向上を目的として2020年に作られた国際標準規格になります。

ISO37160をものさしとして採用した理由は、発電所運営の質を国内のみならずグローバル標準で比較するためです。



ISO37160

スマートコミュニティインフラストラクチャー電力インフラー火力発電インフラの質の測定方法並びに運用及び管理の要求事項

ISO37160は、中長期的な火力発電インフラ品質の維持・向上を目的として2020年に発行された国際標準規格です。この規格に基づく発電所運営を行うことで、Sustainable Development Goalsの内、目標7、11、13、14、15の達成に貢献できます。

①火力発電インフラ品質の構成要素

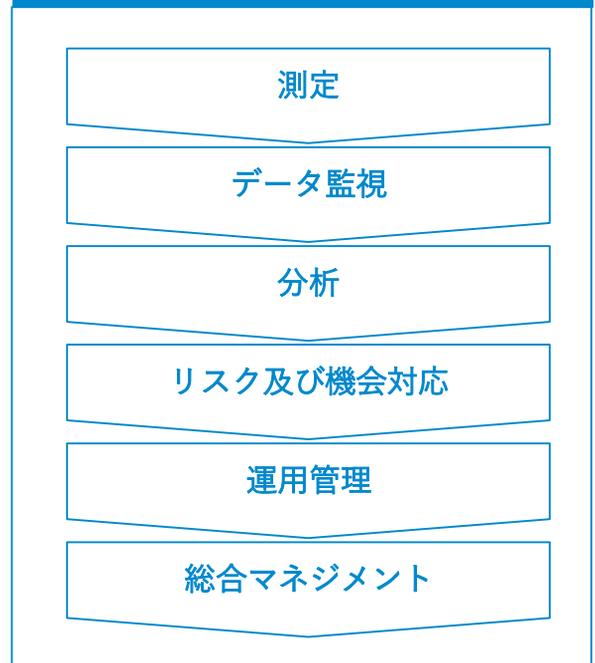
火力発電インフラの品質を6つの要素に細分化し、それぞれの**評価指標**、**評価方法(=ものさし)**を定めたものです。この構成要素は「3E+S」を根幹として定義されています。

| 構成要素 | 評価指標 |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 初期性能 | |
| 可用性 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ アベイラビリティ ➢ 熱消費率増分 |
| 停止復旧能力 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 計画外停止率 |
| 環境・保全への配慮 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 大気汚染物排出原単位 ➢ ボイラ水質 |
| 安全性 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 労働災害の負傷者数 |
| ライフサイクルコスト | <ul style="list-style-type: none"> ➢ ライフサイクルコスト |

②運用・管理活動のための要求事項

①の維持・向上を目的とした、発電所運用者による持続的な運用・管理のための**自己向上メカニズム**やそれぞれの**運用・管理項目に関する要求事項**を定めたものです。

自己向上メカニズム



ISO37160をものさしとした指標比較に興味はありませんか？

ISO評価指標からアベイラビリティ、熱消費率増分、計画外停止率の3つを抽出し、その実績値をJERAと比較してみませんか？

なお、比較にあたっては、JERAが運営するいくつかのプラントデータを活用します。

比較イメージ：熱消費率増分

